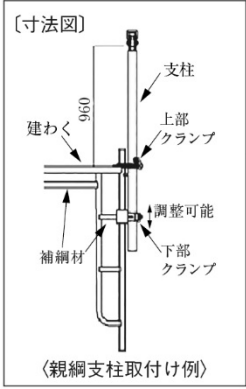
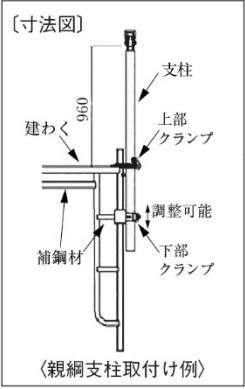
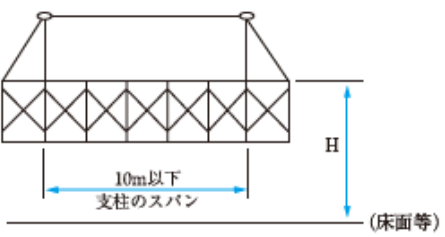
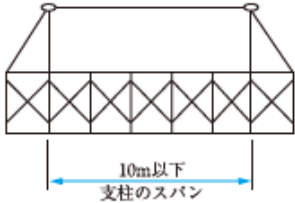
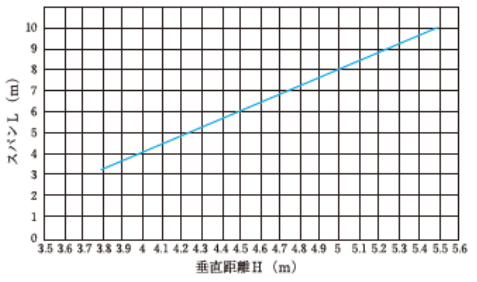


墜落制止用器具のうちフルハーネス型のものを用いて行う作業の業務に係る特別教育用テキスト No.120350  
新旧対照表

第2版 (2019年3月15日)			第3版 (2019年5月7日)		
頁	箇所	内容	頁	箇所	内容
9	4行目	<p><u>現行の親綱支柱は胴ベルト型の使用を前提としていることから、フルハーネス型のランヤードのフックを水平親綱に掛けた場合、フルハーネス型のD環と胴ベルト型のD環との位置の差により落下距離が大きくなる。</u></p> <p>そのため、<u>現行の親綱支柱の親綱に、フルハーネス型のランヤードのフックを掛けた場合、墜落制止時に親綱支柱に作用する衝撃荷重が大きくなるため、使用にあたっては、取付設備に十分な強度があることを確認すること。</u></p>	9	4行目	<p>フルハーネス型のランヤードのフックを水平親綱に掛けた場合、フルハーネス型のD環と胴ベルト型のD環との位置の差により落下距離が大きくなる。</p> <p>そのため、親綱支柱の親綱に、フルハーネス型のランヤードのフックを掛けた場合、墜落制止時に親綱支柱に作用する衝撃荷重が大きくなるため、使用にあたっては、<u>(一社) 仮設工業会の認定品*を使用することが望ましい。</u></p> <p><u>また、鉄骨梁のフランジの方向と親綱の方向が合った支柱(直交型、平行型又は兼用型)を使用するとともに、取付けにあたっては、墜落制止時に親綱支柱が抜け落ちないように取付金具で鉄骨梁等にしっかり固定すること。</u></p> <p>※「親綱支柱・支柱用親綱・緊張器の認定基準」 (2019.2.1施行)</p>
16	下から 6行目	<p><u>水平親綱に合成繊維製ロープを使用する場合、墜落制止時に下方の障害物や地面に激突するおそれがあるときは、水平親綱はフルハーネス型のD環より高い位置に張るか、それができないときは、短いランヤード又はロック機能付き巻取り式ランヤードを用いるなど、落下距離を小さくする措置を講じる必要がある。</u></p> <p>親綱支柱及び水平親綱等の取扱上の留意点は以下のとおりである。</p> <p>〔(一社) 仮設工業会「親綱支柱・支柱用親綱・緊張器等の使用基準」(2002.2.1施行)〕より。</p>	16	下から 6行目	<p>墜落制止時に下方の障害物や地面に激突するおそれがあるときは、水平親綱はフルハーネス型のD環より高い位置に張るか、それができないときは、短いランヤード又はロック機能付き巻取り式ランヤードを用いるなど、落下距離を小さくする措置を講じる必要がある。</p> <p>親綱支柱及び水平親綱等の取扱上の留意点は以下のとおりである。</p> <p>〔(一社) 仮設工業会「親綱支柱・支柱用親綱・緊張器等の使用基準」(2019.2.1施行)〕より。</p>
16	図 2-16 左図	<p>補鋼材</p>  <p>〔寸法図〕</p> <p>支柱 上部クランプ 調整可能 下部クランプ 補鋼材 建わく 960</p> <p>〈親綱支柱取付け例〉</p>	16	図 2-16 左図	<p>補鋼材</p>  <p>〔寸法図〕</p> <p>支柱 上部クランプ 調整可能 下部クランプ 補鋼材 建わく 960</p> <p>〈親綱支柱取付け例〉</p>

第2版 (2019年3月15日)			第3版 (2019年5月7日)		
頁	箇所	内容	頁	箇所	内容
17	7行目	<p>④ 親綱支柱を取付ける支柱のスパン等は、次によるものとする(図2-16、図2-17参照)。</p> <p>(a) 水平親綱を張るための親綱支柱のスパンは、10m以下とする。</p> <p>(b) 支柱を設置した作業床と、衝突のおそれのある床面又は機械設備等との垂直距離Hに応じて使用することのできる支柱のスパンLは、次式により算出した値以下であること。</p> <p>ただし、Hは3.8m以上を確保するものとする。</p> <p><math>L=4(H-3)</math> m</p> <p>L：支柱のスパン (m)</p> <p>H：作業床と衝突のおそれのある床面又は機械設備等との垂直距離 (m)</p> <p>図2-17支柱のスパン(L)と垂直距離(H)の関係</p>	17	7行目	<p>④ 親綱支柱を取付ける支柱のスパン等は、次によるものとする(図2-16参照)。</p> <p>(a) 水平親綱を張るための親綱支柱のスパンは、10m以下とするが、<u>実際の作業状況を考慮し、できる限り短くする。</u></p> <p>(b) 支柱を設置した作業床と、衝突のおそれのある床面又は機械設備等との垂直距離は、<u>親綱のたわみ量等を考慮し、6.75m以上*</u>とする。</p> <p>※6.75mを満足できない場合は、短いランヤード又はロック機能付き巻取り式ランヤードを用いるなど、<u>落下距離を小さくする措置を講じる。</u></p>
17	図2-16	<p>※図中の「H」を削除</p> 	17	図2-16	
17	図2-17	 <p>※図2-17は、85kgの“砂のう”と胴ベルト型との組み合わせで行った試験結果である。</p>	17	図2-17	<p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>※以下、図の番号変更</p>
17		<p>※最下段に右欄を新設</p>	17	最下段	<p>⑤ 親綱支柱に直接ランヤードのフックを掛けたり、安全ブロックを取り付けての使用は、<u>安全性が確認されている場合を除き行わない。</u></p>
54	最下段	<p>② 両端のベルトに傷や著しい摩耗・<u>羽毛立ち</u>があるもの。</p>	54	最下段	<p>② 両端のベルトに傷や著しい摩耗・<u>毛羽立ち</u>があるもの。</p>
124	5行目	<p>3 建地の最後部から</p>	124	5行目	<p>3 建地の最高部から</p>